

第 8 回

子どもの咳がつからそうなのですが……

ナビゲーター>>>



シリーズ監修
堀 美智子 Michiko Hori
(医薬情報研究所 株式会社エス・アイ・シー)



臨床解説
岡田 賢司 Kenji Okada
(独立行政法人国立病院機構福岡病院
統括診療部長)

今回のテーマである咳は、いわゆるかぜ症候群が原因で多くみられますが、かぜ以外にも様々な原因や病気で起こります。また、子どもから高齢者まで経験する症状ですが、特に子どもが咳でつらい様子していると、保護者はとても不安になります。

そこで小児科医の岡田賢司先生に、子どもの咳への対応を中心に解説をしていただきます。

薬局・販売店は地域の身近な相談窓口として、セルフメディケーションを助ける情報支援ができるようになりましょう。

本シリーズでは、読者自身の学習の手助けになるようポイントを絞っています。構成は、店頭で相談者からのヒアリングによるトリアージ→OTC医薬品の選択→情報提供までを「三つのポイント」で展開し、参考情報はアイコンで区別しています。



覚えておこう!

店頭で相談業務を担う専門家として、ぜひ覚えておきたいこと



こんな話も?

興味や理解をより広げるためのコラム

咳の正体とは?

咳は誰でも一度は経験したことがある症状ではないでしょうか。咳には様々な器官や神経が関わっており、メカニズムも複雑です。店頭では、「咳とは、鼻や口、気管支などの気道に入ってきた異物を外に出すための生体防御反応」と説明しましょう。咳は一概に悪者扱いできないことを覚えておいてください。

気道に入り刺激して咳を起こす異物には、冷たい空気といった物理的な刺激や、臭いのある空気や唐辛子に含まれるカプサイシンといった化学的な刺激もあります。そしてちりや花粉、ダニ、カビ、また感染症の原因となる細菌やウイルスも異物に含まれます。また、かぜ症候群をはじめとする呼吸器の感染や炎症、気管支喘息などのアレルギー、精神的な影響などでも咳が起こり、原因は多岐にわたります(表1)。

咳が体に必要な生理的反応と考えると、「今、出ている咳は止めないほうがよいのか」と疑問がわきます。そこで、咳止めの服用が適切かどうかを判断するために、咳について学んでいきましょう。

表1 ^{がいそう} 咳嗽を来たす主な原因

- ・呼吸器の感染、炎症
鼻咽喉頭炎、喉頭炎、気管・気管支炎、肺炎など
- ・気道の物理的的刺激
唾液・鼻汁の流入、圧迫、異物、乾燥、冷気など
- ・化学的的刺激
タバコの煙、刺激性ガス、ちり・ホコリなど
- ・アレルギー性
気管支喘息、喉頭浮腫など
- ・心血管系
肺浮腫、塞栓、肺高血圧
- ・神経性
外耳道を介する迷走神経刺激など

ニューロペプチド研究会著：こどもの咳嗽診療ガイドブック、p6、診断と治療社、東京、2011改変

■ 店頭でのナビゲーション事例



子どもといっても年齢により対応は異なります。事例ではOTC医薬品を実際に勧めるケースが多い年代の上気道炎をみてみましょう。

まず、店頭でのナビゲーションを考えるにあたり、相談事例をみてみましょう（**1**～**4**は14ページに対応）。

相：高校生の娘なんですけど、咳がひどくて……。

専：高校生ですと**15～16歳**くらいですね。**咳はいつ頃から**ですか。

相：先週は鼻水があって、ちょっとのどの調子も変かなという程度で家にあった**かぜ薬**をのませていたんです。鼻はよくなったんですが、今週から咳が出るようになって。夜もなかなか眠れないみたいなんですよ。

専：**咳は日中も出る**ようですか。

相：授業中にも咳き込むことがあるみたいで、周りの人に悪いし、苦しいし……って言っていました。

専：**たんはどうですか。**

相：たんは多くないですが、ありますね。のどの痛みもあるようです。

専：それでしたら、こちらの咳止めはいかがですか。のどの炎症を鎮めるトラネキサム酸も入っていますし、のどがイガイガして咳が出そうな時にのんでいただくと、楽になりますよ。1回量のみ切りタイプなので、**学校にも持って行きやすい**ですしね。

相：以前、**かぜ薬のせいで、口が渴いて話をするのも大変**だったみたいなんですけど、これは大丈夫……。

専：口が渴く抗ヒスタミン成分などは入っていないので、大丈夫だと思いますが、**水分はこまめに摂る**ようにして下さい。たんも切れやすくなりますよ。

相：わかりました。でも、1箱に3本しか入っていないんですね。3回分で足りませんか。

専：6本入りもありますよ。そのほかには**こちらの計量タイプのシロップ剤や錠剤の咳止め**もあります。お薬をのまれても咳が続くようでしたら、**お医者さんに診てもらうように**して下さい。咳は体力を消耗しますし、咳喘息などに移行する恐れもありますから……。

薬を必要としているのは誰で、**何歳（1）**か。**いつ頃から咳が出る（2）**ようになったかを確認

これまでの**経過（3）**を確認

上気道炎から咳に移行してきたことがわかる。

咳の程度・頻度を確認（2）

たんのからむ咳かどうかを確認（2）

症状や生活スタイルなど相手の**ニーズに合った薬**の提案。選択理由を説明（4）

かぜ薬による口渇を心配していることがわかる

たんの切れをよくするために、水分摂取の**アドバイス（4）**

乱用防止にも配慮。

薬のみ方を提案

受診のタイミングを**アドバイス（4）**

相：店頭を訪れた相談者

専：薬剤師もしくは登録販売者などOTC医薬品の販売専門家

ポイント ヒアリング(情報収集)、病態の推定

子どもの咳に対する
トリアージをみていき
ましょう。



✓ 相談者から引き出したい情報

- 1 年齢の確認
- 2 症状の確認
- 3 経過の確認

1は、年齢の確認です。薬局・販売店では診断はできませんが、咳はその原因となる細菌やウイルスなど、年齢によって罹患しやすさが異なりますので、咳の特徴を知っておくとよいでしょう。また、咳に関連する疾患の予防接種を受けているかの確認も大切です(19ページ参照)。

2は、症状の確認です。咳の程度や随伴症状、たんや発熱の有無などです。咳は、生体の防御機構でもありますから、止めたほうがよい咳か、止めないほうがよい咳か確認する必要があります。たんが絡んだ咳の場合は、去痰剤などで様子を見るようお勧めしてもよいでしょう。また、乳幼児や小児の場合、これらの症状がそんなにひどく

4 説明事項

- ・お勧めの薬に対する理由
- ・日常生活上のアドバイス
- ・受診へのアドバイス

なくても、「普段と変わらないかどうか」の確認も大切です。

3は、症状の経過です。いつ頃からどのような症状があり、どのように変化してきたかの確認です。また急性の咳なのか、数週間続いている咳なのか。あるいは、季節や環境の変化によって咳が出るといったアレルギー性の咳なのか。さらに、咳の症状はいつひどいか。ひどいのは昼間か夜かという点も咳の原因に関係していることがあります。

4は、説明しておきたい事項です。脱水状態になるとたんも出にくくなります。水分の補給の大切さを説明します。また、セルフメディケーションの限界も伝え、受診のタイミングを逃さないようにしましょう。

● 医師はこんなところもみている

小児科医が特に気にすることは、子どもの年齢とともに、咳や微熱があっても保護者の目から見て「普段と変わらないかどうか」です。

咳が続き、鼻水がみられても、熱が39℃もあっても「普段通りミルクを飲んでいます」、「普段通り元気よく遊んでいます」という時はあまり大きな病気は隠れていないと考えられます。逆に、熱は37℃ぐらいでも、「普段と違って元気がない」といわれると、小児科医は「何か病気があるのかな」と考えて子どもを診ます。

小児科医が親御さんにお子さんの容体を聞く時のキーワードは、「普段と変わらないかどうか」です。



そのほか、子どもの咳に対するトリアージのポイントをみていきましょう(表2)。

● いつから始まったのか

咳の持続期間が3週間以内の場合は急性咳嗽(咳)にあたります(表3)。期間によって原因となる病気は異なります。

表2 小児の咳嗽患者に対するトリアージのポイント

- ・咳はいつから始まったのか?(咳の持続期間)
- ・咳の経過は?
- ・咳の性状は?(乾性/湿性、たんを伴うかどうか)
- ・咳の出る時間帯は?
- ・日常生活との関連は?(運動、睡眠、食事など)
- ・環境因子(ペットとの接触、喫煙・受動喫煙、住宅状況など)
- ・随伴症状の有無
- ・予防接種歴、既往歴、家族歴

表3 小児の急性、遷延性、慢性の咳嗽疾患

ステージ	疾患
急性咳嗽(3週以内)	急性鼻・副鼻腔炎、急性咽頭炎、クループ、急性気管支炎、肺炎、細気管支炎、気道異物
遷延性咳嗽(4~8週)	百日咳、マイコプラズマ感染症、クラミジア肺炎
慢性咳嗽(8週以上)	気管支喘息・咳喘息、後鼻漏症候群、誤嚥・胃食道逆流症、喉頭アレルギー、気管支拡張症、肺結核など

ニューロペプチド研究会著:こどもの咳嗽診療ガイドブック,p19,診断と治療社,東京,2011改変

ニューロペプチド研究会著:こどもの咳嗽診療ガイドブック,p28,診断と治療社,東京,2011改変

●経過

咳が出始めるタイミングは様々です。最初は鼻水だけで後から咳も出る、咳の症状だけ、などもあります。

●性状

①たんのからんだ咳(湿性の咳)→主な原因となる病気：鼻・副鼻腔炎、気管支炎、気管支拡張症など

たんで異物をくるみ咳で出そうとする反応です。そういう時に咳を止めてしまうと、痰の排出を抑えることになるので、一般的には鎮咳作用の強い薬で咳を止めないほうが望ましいとされ、去痰薬が使われます。

②たんをほとんど伴わない空咳(乾性の咳)→主な原因となる病気：百日咳、心因性咳嗽、外耳道炎など

咳は1回で約2kcalのエネルギーを消費するため、病気で弱っている時に空咳が続くと体力を消耗することがあり、比較的鎮咳作用の強い薬で咳を止めたほうがよいと考えられます。

咳そのものが特徴的で判断の目安になり、受診勧奨ができる病気もあります。最近では、インターネット上に咳の音声が載っているページもありますので、聞いておくと参考になります(表4)。

●起こりやすい時間帯があるのか

昼間に起こりやすい咳、夜に起こりやすい咳があり

表4 咳に特徴のある病気

病 気		咳の特徴
クループ	主に乳幼児期にみられるウイルスの感染による急性の喉頭気管炎	喉の少し奥にある喉頭に炎症が起こると、犬が吠えるような犬吠様咳になる。声がかすれる症状がみられることが多い
百日咳	百日咳菌による呼吸器感染症	「コンコンコンヒューッ、コンコンコンヒューッ」と形容される咳。コンコンコンと連続して5～10回咳き込み、苦しくなったら最後にヒューッ(笛声)と息を吸う
気管支喘息	アレルギーによる気管支炎	喘息では息を吐く時につらくなるため、症状が強くなると「ゼーゼー」という音がする。さらに重症になると呼吸が苦しく、口唇の色が悪くなる

■セルフメディケーションで対応できない時は

繰り返しになりますが、子どもが「普段と変わらないかどうか」ということが大切なキーワードです(表5)。2～3日前から咳があっても、普段と変わらない時は、あまり大きな病気の心配はないでしょう。でも、熱はそれほど高くないのに何となくきつそうに横になっていたり、食欲がないという時は「かかりつけの先生のところに行かれたほうがいいですよ」とアドバイスをしましょう。

また、子どもが普段の様子と変わらないかどうか気づ

ます。例えば、心因性の咳は夜寝ている時は起こりません。喘息は明け方から朝に起こりやすい咳の典型です。

●日常生活との関連や環境

運動をすると咳が出たり症状が強くなる場合もありますので、日常生活との関連を把握します。布団に入ると咳き込む場合は、布団のなかにいるダニを吸い込むことにより喘息発作が起きているのかもしれませんが。典型的な喘息はハウスダストやダニ、ペットの犬猫の毛、タバコの煙、ぬいぐるみや絨毯・カーテンなどに付着しているダニ・ホコリが原因でも起こります。

感染症は流行する季節があり、一般に冬にはインフルエンザやRSウイルスが多いといわれています。また肺炎や喘息が季節によって発症の頻度が変わる理由は、日本の本土では季節によって流行する細菌やウイルス、あるいはアレルギーが異なるためです。薬局・販売店でも、地域サーベイランス情報に注意を払っておきましょう。

●随伴症状があるか

さらに、随伴症状も聞く必要があります。ポイントは、鼻水・鼻づまり・発熱・嘔吐、乳児より大きい子だったら頭痛、といった症状があるかどうかです。鼻水があれば抗ヒスタミン薬が配合された薬も使われます。

子どもの普段の様子をよく知ることが大切です。



くためには、周りの大人が子どもの普段の様子をよく知ることが大切です。平熱を測る習慣等もつけるように説明しておきましょう。

表5 受診勧奨の目安

- ・ 普段とは違う時
- ・ かぜ症候群以外の病気が疑われる時
- ・ 夜眠れない咳など、日常生活に支障がある時
- ・ 咳の症状や他の随伴症状が長引いている時
- ・ 特徴的な咳がみられるクループや百日咳、気管支喘息が疑われる時



咳を理解するために知っておきたい気道の構造やたん

たんはとても大切なたらぎをしています。その役割を知っておきましょう。



●気道の構造 (図1)

気道は上気道と下気道に分かれ、喉頭よりも上を上気道、そこから下の細気管支までを下気道と呼びます。空気の通路である気道は鼻腔から始まり、咽頭、喉頭につながり、さらに気管となり、二本の気管支に分かれ、肺に入ります。

気道に炎症が起きたり、気道が収縮して狭くなったりすると、息を吐く時に咳が起こります。たんを伴う時はゴホッという咳になり、ゼーゼーやゴロゴロという場合もあります。たんがなくて乾いた咳の時はコンコンという咳になります。

●たんのしくみ

上気道は粘膜で覆われ、空気と一緒に吸い込まれた異物は粘膜に付着することで除かれます。さらに上気道を通り抜けた異物は、気管や気管支の粘膜に付着し捕らえられます。

下気道の粘膜の表面には線毛がびっしりと生え、絶えず動いて細い気管支から気道へと異物を粘液とともに送ります(線毛運動については、469号12ページ参照)。通常は異物と粘液は食道に落ちますが、粘液の量が多いとたんとなります。さらに量が増えると、咳やくしゃみでたんを排出しようという反応が起こります。

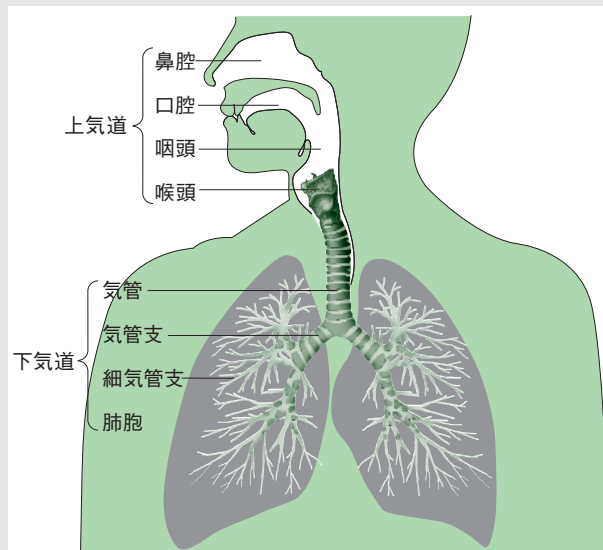
●たんと密接に関係する脱水状態

脱水状態になると、たんが気管支に詰まりやすくなり、重症化の大きな原因ともなります。それほど脱水は怖く、注意が必要です。

たんがからむ咳の時は、脱水状態にならないように水分補給のアドバイスをしましょう。水分を補給することでたんが切れやすくなります。特に熱が出ている時は脱水になりやすいので注意が必要です。

最近、喘息で亡くなる子どもは全国で数人と減りましたが、一番多い原因は、気管支にたんがべったりと詰まること

図1 上気道、下気道の構造



です。また高齢者は肺炎で亡くなるのが少なくありませんが、たんが詰まって出にくくなり、たんを誤嚥することも肺炎の原因になるといわれています。

子どもが脱水しているかどうかは、体温計で熱を測るように数値でわかるものではありませんが、尿の出方が目安になります。尿が普段と違って少ないようだったら、脱水が疑われます。乳児の場合は、おむつを替える頻度が普段と違って少ないかどうかを聞いてみると、「そういえば少ないかもしれません」と答える保護者も結構います。ただし、最近の紙おむつは表面がサラサラとしているため、尿の量をお母さんが実感することはなかなか難しいかもしれません。

また、口のなかがかカラカラかどうかでも脱水の目安で、よく観察するとわかります。加湿器を使用するのもよいでしょう。



鎮咳に用いられるテオフィリン

鎮咳によく用いられるテオフィリンは、OTC医薬品では第一類医薬品に分類されています。

薬物相互作用があることと痙攣の副作用があるため、配合されているOTC医薬品は8歳以上の適応になっています。効果の高い成分ですが、抗菌薬を使っていないか、あるいは発熱していないかなど、使用上の注意を確認し、添付文書に従って適正使用を説明することが必須となります。

テオフィリンは、適切な情報提供が必須で、第一類医薬品となる成分です。



入院が必要な程度の副作用が生じた場合、添付文書に従い正しく使用されていれば、医薬品医療機器総合機構による「医薬品副作用被害救済制度」を受けることもできます。各製品にも連絡先が記載されていますので、薬のプロである薬剤師の方には、こうしたこともふまえた接客を心がけてほしいですね。



咳を伴う主な疾患解説

●年齢に応じて異なる咳の病気

咳は子どもから高齢者までよくみられる症状ですが、子どもの咳の特徴は新生児、乳児、幼児、学童・思春期と年齢によって原因となる病気が異なることです(表6)。中学生ぐらいになると成人とあまり変わらなくなります。

幅広い年齢で多いのは上気道炎や気管支炎などの気道感染症です。保育園や幼稚園に通っているかどうか、そこで咳が出る病気が流行しているかが大きく関係します。RSウイルスの感染症も多く、感染症に伴って喘息の発作が起きてしまうこともあります。

小学生になると免疫力が強くなり、あまりかぜをひかなくなります。

表6 年代別にみた咳の原因疾患

年齢の区分	咳に関係する主な病気
幅広い年齢	気道感染症、後鼻漏症候群、アレルギー性鼻炎、受動喫煙、気管支喘息、百日咳、結核
新生児・乳児期	急性細気管支炎、咽喉頭逆流症など
幼児期	クループ、気道異物、胃食道逆流症など
学童・思春期	副鼻腔炎、マイコプラズマ感染症、心因性咳嗽、気管支拡張症など

ニューロペプチド研究会著：子どもの咳嗽診療ガイドブック、フローチャート、診断と治療社、東京、2011改変

●かぜ症候群

咳の原因として一番多く、出やすい症状のタイプも様々です。鼻水・のどの痛み・発熱と幅広いタイプのかぜに咳が伴います。これは、感染したウイルスなどが下気道にも感染を起こすためです。

かぜ症候群の症状がなく、いきなり咳き込み始める時は、かぜとは異なると考えられます。

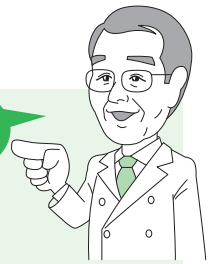
●百日咳

百日咳の特徴は、たんを伴わないで、いきなり咳き込む(発作性の咳)ことで、激しい咳が長く続くため、エネルギーを奪っていきます。

激しい咳の場合、随伴症状として嘔吐するかどうかを聞きましょう。子どもも大人も、咳き込んで吐くことがあります。

感染を防ぐためにも受診勧奨が必要で、治療には抗菌薬などが使われます。

咳を伴う疾患は様々。代表的なものを覚えておき、接客に活かしましょう。



●気管支喘息

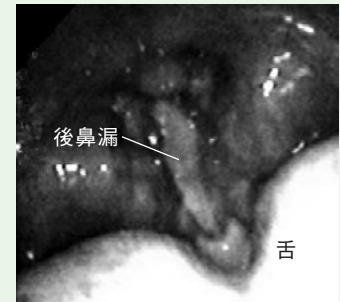
ホコリやダニなどの刺激が気道に付いた時、アレルギーで咳が起こります。

小さい子どもの多くは感染を伴っているため、ゼロゼロあるいはゴロゴロというたんを伴った咳になります。

治療には、薬物療法(吸入ステロイド薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬、気管支拡張薬など)を行うとともに、原因を避ける環境整備も大切です。「喘息かな」と判断したら、受診勧奨をしましょう。

●後鼻漏と副鼻腔炎

小さい子どもは上手に鼻がかめないため、鼻水を飲み込みます。そうすると炎症性の物質を飲み込むことになるので、それが刺激となって咳が起こります。



押川千恵先生(国立病院機構福岡病院耳鼻咽喉科)ご提供

そのような場合には後鼻漏(鼻水がのどに流れる)がみられ、実際に医師が診察するとのどの奥に鼻水が垂れているのが観察できる場合があります(写真)。咳が8週間以上続き、副鼻腔炎を伴う咳がみられる場合には副鼻腔炎の治療が必要です。応急処置として鼻水を止める薬を勧め「耳鼻科に行ってください」と受診勧奨をしましょう。

●マイコプラズマ感染症

6歳以上の子どもの長引く咳の原因の一つです。マイコプラズマにより起こり、飛沫を吸い込むことによって感染します。肺炎や気管支炎などが多くみられます。

高熱と長引く頑固な咳が特徴ですが、軽症の場合はかぜ症候群と同じような症状がみられます。治療は抗菌薬が使われます。

ポイント OTC 医薬品の選択と販売時の情報提供

相談者の状況を把握し、適切な薬をお勧めしましょう。



16 ページにもあるように、テオフィリンは第一類医薬品の成分です。きちんと説明して販売することが大切です。

また、抗ヒスタミン成分などはたんの粘稠性を増し、

たんを出しにくくします。咳だけでなく、鼻水があるかないかという随伴症状などを確認して、抗ヒスタミン成分を含む商品にするか、含まない商品にするか、お勧め分けを行いたいものです。

咳の症状に用いられる OTC 医薬品

OTC 医薬品の鎮咳去痰薬に配合されている主な成分

分類	主な成分	作用・注意
中枢性麻薬性鎮咳成分	コデインリン酸塩水和物、ジヒドロコデインリン酸塩	<ul style="list-style-type: none"> 延髄の咳中枢を抑制し、咳を鎮める モルヒネと同じ基本構造を持つため、長期連用や大量服用により薬物依存を生じることがある 授乳中の人は服用しない（妊娠中の人は相談すること） 腸管の蠕動運動を抑制し、便秘を引き起こすことがある
中枢性非麻薬性鎮咳成分	ノスカピン、デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物、デキストロメトルファンフェノールフタリン塩	<ul style="list-style-type: none"> 延髄の咳中枢を抑制し、咳を鎮める 麻薬性鎮咳成分のような依存性はなく、副作用も少ないとされる
気管支拡張成分（交感神経刺激成分）	メチルエフェドリン塩酸塩、トリメトキノール塩酸塩、マオウ	<ul style="list-style-type: none"> 交感神経刺激作用により、気管支拡張作用を示す 交感神経の支配は全身に及ぶため、心刺激作用、血管収縮作用などにも注意。高血圧、心臓病、糖尿病、甲状腺機能障害のある人、高齢者は服用前に相談
気管支拡張成分（キサンチン系成分）	テオフィリン、アミノフィリン水和物	<ul style="list-style-type: none"> 自律神経系を介さずに気管支平滑筋を弛緩させて、気管支拡張作用を示す 特にテオフィリンは、有効域が狭く、中毒域と接近しているため、過量服用になりやすく、悪心、嘔吐、動悸、頭痛などの副作用が現れやすい 発熱している小児、痙攣を起こしたことがある小児、てんかんの診断を受けた人では痙攣を誘発するおそれがあるので、慎重に対応
抗ヒスタミン成分	クロルフェニラミンマレイン酸塩	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー性の咳を鎮める 抗コリン作用により腺分泌が抑制され、口の渇きを生じるほか、たんが切れにくくなることもある
抗炎症成分	トラネキサム酸、リゾチーム塩酸塩	<ul style="list-style-type: none"> のどの粘膜の炎症を鎮める トラネキサム酸は、血栓のある人、血栓症を起こすおそれのある人は注意 リゾチーム塩酸塩は、鶏卵アレルギーの人は服用しない
去痰成分	プロムヘキシン塩酸塩、グアイフェネシン、グアヤコールスルホン酸カリウム、カルボシステイン	<ul style="list-style-type: none"> 気道分泌を促進したり、たんの成分を分解して粘度を下げたりすることにより、たんの切れをよくし、排出を促す
	セネガ流エキス	<ul style="list-style-type: none"> 気道粘液の分泌を増やして、たんを出しやすくする
中枢神経興奮成分	無水カフェイン	<ul style="list-style-type: none"> 中枢神経系を興奮させ、同時に配合された抗ヒスタミン成分による眠気を抑える
殺菌消毒成分	セチルピリジニウム塩化物水和物、ベンゼトニウム塩化物	<ul style="list-style-type: none"> のどの炎症の原因菌を殺菌する

咳に使われる主な漢方処方

処方名	効能・効果の一部
ばくもんどうとう 麦門冬湯	体力中等度以下で、たんが切れにくく、ときに強くせきこみ、又は咽喉の乾燥感があるもののせき
まきょうかんせきとう 麻杏甘石湯	体力中等度以上で、せきが出て、ときにのどが渇くもののせき
じんそいん 参蘇飲	体力虚弱で、胃腸が弱いもののせき

■ 対応事例



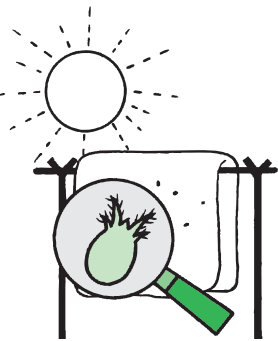
最後に小児と小児以外のケースも事例で対応を確認しましょう。

事例 1

孫が泊まりにくるたび、咳き込む。布団も干して、掃除もちゃんとしているのに。来週も遊びに来るので、咳止めを用意しておきたい。

年齢：小学校低学年 性別：女性

対応：相談者は祖母。天日干しにより、布団のなかのダニが表面に出てきたことによる咳と考えられる。干した布団は掃除機をかけるようにアドバイス。鎮咳成分を配合したトローチなどを販売してもよいが、「神経質にならず、咳が出てから対応を考えましょう」と伝える。



事例 2

咳・たんが続いている。咳止めののんでもおさまらない。最近、息切れも気になるようになってきた。喫煙習慣がある。

年齢：60代の印象 性別：男性

対応：COPD(慢性閉塞性肺疾患)の可能性。去痰成分のみを配合したOTC医薬品で対応し、早期に受診するよう伝える。禁煙のアドバイスも行う。

事例 3

かぜをひいて咳・鼻水が出る。熱はない。普段から便秘がちで、下剤を使用することもある。

年齢：40代の印象 性別：女性

対応：抗ヒスタミン成分を配合した鎮咳去痰薬で対応。便秘の悪化を避けるため、麻薬性鎮咳成分を含まないものを選択する。



日本ではDTaPワクチン^{*}の接種も世界に先駆けて1981年に開始し、乳幼児の患者数減少に貢献しています。

From ナビゲーター

・ワクチン

咳のある病気のなかには、予防接種で防げるものもたくさんあります。百日咳についてはワクチン接種によって乳幼児の患者数は大きく減り、罹っても軽い症状ですみます。また、2009年に大流行した新型インフルエンザですが、その株を用いた混合型の季節性インフルエンザワクチンが2012年度も製造され、接種されています。

店頭で相談者が母子手帳を持っていない時もあると思いますが、「予防接種を受けていますか。勧められている注射もありますよ」とお尋ねしてみましょう。

・喘息発作の原因を探る

喘息の子どもの保護者は、布団にも気をつけて念入りに掃除機をかけるなどして、ホコリやダニを除去しています。

ところが、祖父母の家に行くと子どもが喘息発作を起こしてしまうことが少なくありません。孫が来たとき歓迎してくれる祖父母のせっかくの心遣いが、喘息発作を招いてしまっているのです。押し入れに収納し

た普段使っていない布団を、孫のためにと天日で干した場合、温かい所を好むダニが布団の表面に集まり、子どもが布団に入って動くとダニが舞い上がってしまうのが原因です。

布団を日に干した後、掃除機でよく吸い取ると喘息対策になることを伝えましょう。

・子育ての支援ができる薬局・販売店に

子どもを持った若いお母さんは、子どもの病気について経験がないと不安になりますし、夜になると昼間よりも一層不安が募りますので、地域の薬局・販売店で相談すると安心できるでしょう。

また、乳幼児が咳のために夜眠れない場合は、保護者も疲れ切ってしまうため、保護者のQOLを考慮することも大切です。

薬局・販売店では、こうした子育ての支援にもつながるよう保護者も子どもも一緒に総合的なケアができるように考えていただきたいですね。

*沈降精製ジフテリア、破傷風、無細胞百日咳ワクチン